ＨＡＮＧＧＬＩＤＥＲ

関西選手権２００６

大会・競技規定書

主　催：関西選手権実行委員会

日　程：２００６年２月９日～２月１２日

HANGGLIDER 関西選手権２００６

大会規定

この大会規定は、JHFハンググライディングルールブックと併せて解釈される。この大会規定に明記が無い項目については、JHFハンググライディングルールブックが適用される。

【参加資格】
１．ＪＨＦフライヤー会員登録が期間中有効で、かつJHFXCパイロット技能証を有し心身ともに健全で、競技参加に支障のない者。但し、競技委員長が認めた外国人選手の場合、JHFパイロット技能証と同等の技能を有し、日本国内で有効な第三者責任賠償保険（保険金はフライヤー登録と同等以上）に加入していることを条件とする。
２．心身共に健全で、パイロット個人の意志で飛行できる者。

【参加機体】
１．参加機体はＦＡＩ基準のＯ種クラス１、使用機体は原産国あるいはＪＨＳＣによって認められている国の滞空証明が明示されたものとする。
２．参加機体は申込書で登録し、競技役員の機体検査に合格したものであること。
３．参加機体が破損した場合は遅滞なく競技委員長に申し出適切な処置（パーツ交換、修理）をする事。処置後の機材は損傷を受ける以前と同等の対空性能を持っていなければならない。
４．機体その他装備品の安全は、選手自らが確保しなければならない。

【参加機体の変更について】
１．原則として、(成立した１本目以降)使用機体が破損した場合、同一機種、同一サイズのものに変更する事ができる。
２．ただし、破損により修理不能の機体変更は、競技委員長の判断により他機種、他サイズのものに変更する事ができる。
３．変更の際は、書面にて競技委員長に機体変更申請を提出し、機体検査を受けること。

【大会役員の権限】
１．大会中参加選手は大会役員の指示に従わなければならない。大会役員の指示に従わなかったり、競技に支障をきたす行為があった場合、警告を与え、その日のフライトを失格または、大会失格とする場合がある。
２．フライト及び大会失格になった場合、大会役員はその損害を補償しない。
３．競技の疑義についての判断は競技委員長がおこなう。

【フライト失格】
１．雲中飛行、空中接触等危険なフライトと判断した選手や、故意のテイクオフ失敗、競技進行を妨げる行為（テイクオフディレクターの判断）をした選手は、そのフライトを失格とする。
２．高圧線上をフライトする場合、その高圧線上から１００ｍ以内を飛行したと大会関係者が判断し競技委員長が認めた場合、その日のフライトを失格とする。

【大会失格】
１．重大なる危険行為をした選手、故意に不正を行った選手、大会規定に違反した選手はその時点で大会失格とする。

【抗議】
１．抗議申し立てはトラブル発生後１時間以内に文書で供託金￥１０，０００を添えて競技委員長に提出しなければならない。
抗議が受け入れられた場合のみ供託金は返還される。

【事後及び損害賠償】
１．大会期間中のフライトは選手自らの判断で飛行するものとし、万一事故等が発生した場合、紀ノ川フライトパークエリアルールに則り本人の責任において対処すること。なお、経過を大会本部に報告すること。
２．フライトにおいては、選手自らの判断であり、事故発生に当たってその責任は選手個人が負うものとし、大会主催者、大会役員、大会関係者、地元関係者並びに、他の何人にもその責任の追及、責任の転嫁や、損害賠償を請求してはならない。

【フライトの成立】
１．この大会はフリーテイクオフ制とし、物理的に全選手がテイクオフするだけの時間（当日のフライト意志を表明した人数×１分）ゲートが開いており、（ゲートが複数の場合その合計時間）、なおかつデイクオリティーが０を超えた場合。または、全選手がテイクオフし、なおかつデイクオリティーが０を超えた場合そのフライトは成立する。

【大会の成立】
１．本大会は、最低１本のフライトが成立した段階で大会成立とする。

【成績発表】
１．得点計算が終わり次第、公式掲示板にてフライト成績を仮発表する。
２．正式発表は翌日の受付時間とする。（最終日のみ指定時間）
３．成績発表後１時間（最終日のみ１５分）以内に異議申し立てがなければその成績は成立する。
４．表彰式以前で計算などの明らかな運営側のミスは変更できる。

【順位の決定】
１．大会期間中の合計得点で順位を決定する。
２．１０位以内の選手の合計得点が同点の場合、ゴールした数が多い選手を上位とする。

【グライダーの運搬】
１．テイクオフまでのグライダーの運搬は役員の指示に従わなければならない。

【タスク】
１．タスクは次のものとし、基本的には平均速度を競うタスクとする。

【タスクの発表】
１．タスクは当日の気象条件により、競技開始前にタスクコミティーにより協議し、競　技委員長が発表する。また、同時に公式掲示板にもタスクを発表する。また、セフティーコミティーを設けてアドバイスを受ける。
２．発表する項目は、大会名、月日、タスク、ディパーチャーパイロン、タスク距離、ゲートオープンタイム、ゲートクローズタイム、デパーチャーオープンタイム、デパーチャークローズタイム、インターバルタイム、ＧＰＳパラメーター、シリンダセクターの半径、タスクフィニッシュタイム、タスクレポートタイム　、公式無線周波数、本部電話番号、指定旋回方向とする。
【ミニマム距離】
１．競技成立のミニマム距離は、６ｋｍとする。
【タスク距離】
１．タスク距離（テイクオフからゴールまでのフライト距離）は参加選手の約20％の選手がゴールするように設定することが望ましい。
【競技開始時刻】
１．選手はゲートオープンタイムからゲートクローズタイムの間にテイクオフを行い競技　を開始する。尚、ゲートオープンタイム以前及び、ゲートクローズタイム以降テイクオ　フし、競技を開始することは出来ない。なお、オープンウインドウをもうけた場合、Ｊ　ＨＦ競技規定の方式とする。
【テイクオフ方法】
１．テイクオフは、フリーテイクオフを用いる。テイクオフにはセットアップゾーン、　スタンバイゾーン、テイクオフゾーンと３つのゾーンを設け選手は順番に各ゾーンを通過しテイクオフしなければならない。また、スタンバイゾーン、テイクオフゾーンは定員を定める。但し、別に定めるシード選手はこの限りではない。
２．シード選手とは、大会初日においては昨年度（2005年度）ハンググライディングシリ　ーズランキング10位までの選手をいい、２日目からは、前日までの総合順位が10位ま　での選手を言う。シード選手はテイクオフでは、シードゾーンでセットアップを行い、　物理的に可能な状態でスタンバイゾーンに割り込み、シード選手以外の誰よりも先にテ　イクオフゾーンに進入できる権利を持つ。
【セットアップゾーン】
１．グライダーのセットアップはこのゾーンに限り出来るが、役員の指示があるまでセッ　トアップしてはならない。
２．グライダーのセットアップ場所は、前日の成績順に指定する。但し同順位のセットアップ場所は前年度ハンググライディングシリーズ順位及びパイロットナンバー順により決定する。
３．成績上位の選手は、下位の選手よりも先にスタンバイゾーンに進入できる権利を持つ。
４．セットアップゾーンの出口が混雑している場合は、スポーツマンシップの精神に則り、　譲り合いの気持ちでスタンバイゾーンに並ばなければならない。
【スタンバイゾーン】定員５名
１．テイクオフゾーンに進むためにはスタンバイゾーンを通過しなければならない。スタ　ンバイゾーンは一列になり、先頭の選手から順次テイクオフゾーンに進まなければなら　ない。
２．スタンバイゾーンの選手全員がテイクオフゾーンへの進入を拒否した場合、その選手　全員がスタンバイゾーンに留まることが出来るが、定員が超過した場合、超過した人数　分だけ先頭よりテイクオフゾーンに進まなければならない。
３．スタンバイゾーン内の総ての選手が留まっていたが、その中からテイクオフゾーンへ　の進入希望者がでた場合、先頭よりその選手までが順次テイクオフゾーンに進まなけれ　ばならない。
４．スタンバイゾーンからセットアップゾーンまで列がのびた場合、セットアップゾーン　規定３に従う。
５．一度スタンバイゾーンに進入した選手及びテイクオフゾーンへの進入を希望した選手　は、原則的にキャンセルは出来ない。尚、キャンセルした場合その日のフライトをキャ　ンセルしたものとみなす。
【テイクオフゾーン】各定員３名
１．テイクオフゾーンでは１列になり順番の変更をしてはならない。
２．前の選手がテイクオフしてから次の選手は２分以内にテイクオフしなければならない。　但し物理的に危険で、役員が一時的にテイクオフクローズした場合は除く。
３．テイクオフゾーンで１度も選手が複数にならなかった場合その選手はフリーテイクオ　フとなるが、複数になった時点でその時点から２分以内にテイクオフしなければならな　い。
４．何らかの理由でゲートクローズになった場合、先頭のパイロットはゲートオープン後　２分以内にテイクオフしなければならない。
５．一度テイクオフゾーンに進入した選手は、原則的にキャンセルは出来ない。尚、キャ　ンセルした場合その日のフライトをキャンセルしたものとみなす。
【補足】
１．スタンバイゾーン、テイクオフゾーンへのシード選手以外の割り込み、または全選手　順番の変更は出来ない。
２．上記ゾーン規定を守らない選手はその日のフライトを失格とし、その行為が進行を妨　害したと判断した場合は、大会失格とすることがある。
３．テイクオフではディレクター、役員の指示に従わなければならない。
【フライトの記録】
１．フライトの記録は、ＪＨＦ競技規定記載のＯＫサインが有るＧＰＳを使用し、そのデ　ータを記録とする。
２．記録の吸い上げは、ＪＨＦ競技規定に準拠する。
【リフライト】

１．リフライトを希望する選手は何度行ってもよいが、フライト前にトラックログを消去　　してからテイクオフすること。
【テイクオフ】
１．テイクオフは龍門山テイクオフとする。
【ゴール】
１.ゴールは、地上のゴールラインまたはＧＰＳ上のゴールラインまたは、ゴールシリンダとする。
２.ゴールには必ずゴール役員を設置する。
３.ゴールした選手はゴール役員への自己申告とする。
４．集中してゴールしたときの混乱を避けるため、ゴールパイロンの近くにランディング　　場を用意し、ゴール役員がゴールの確認を行うこと。（ゴール以外の選手はゴールライ　　ンを通過しないようにすること）
５．ゴールラインの場合
ａ）吹き流し２本により長さ最低50ｍのゲートラインを設置する。
ｂ）そのゴールライン上空（対地高度200ｍ以下）を最終パイロン方向から通過する。　　ゴールを確認すると役員は予め定められた旗を振る。ただし、旗は競技中止を示す赤　　旗と混同しないものでなければならない。
ｃ）２機以上の同時ゴールの場合、いちばん低空のグライダー以外は再びゲートライン　　を通過しなおした方がよい。
ｄ）ゴールした選手は、ランディング終了後、自分のゴールをゴール役員に確認するこ　と。
【競技終了報告】
１．その朝受付を行った選手は、フライト終了後、タスクフィニッシュタイムまでに安全確認にため大会本部に競技終了の報告をしなければならない。
２．指定した時刻までに連絡がない場合、そのフライトは失格となる。
【競技記録提出】
１．得点を得ようとする選手は、タスクレポートタイムまでにＧＰＳを大会本部に提出しなければならない。
２．上記以外の選手も、同時刻までに大会本部にその旨報告する義務を持つ。
３．指定した時刻までに提出または報告されない場合、そのフライトあるいは、大会失格　　にすることがある。
【時間の計測】
１.飛行時間はスタートからゴールまでを計測し、秒単位とする。
ａ）スタート時間
インターバールエアスタート方式の場合、デパーチャーオープン時間から1分、5分、10分、15分間隔でスタートパイロンが開くもの。選手はスタートを切る場合は時間に合わせる必要があり、もし７分にスタートを切った場合この選手は00分のスタートとなり、55分の場合は45分のスタートとなる。（時間はＧＰＳ時計の時間とする。）デパーチャーのオープン時間は最大90分とする。
ｄ）ゴール時間
ゲートラインの場合は、ゲートライン上空（対地高度200ｍ以下）を最終パイロン方　向から機体の最先端がゲートラインを通過した時とする。ＧＰＳ上のゴールラインの場　　合は、ＧＰＳ上のゴールラインを通過した時刻とする。
【ＧＰＳについて】
１．本大会で使用するＧＰＳは、ＪＨＦハンググライディングシリーズ競技規定書記載のＧＰＳの内、ＯＫマークが記載されているものに限る。なお、メーカー規定の改良以外　　改造等されている場合は使用できないものとする。
２．フライトの証明は、このＧＰＳに記録されたトラックログ、時間を使用する。
【セクター】
１．ターニングポイントのセクターはシリンダセクターを採用し、ＪＨＦ競技規定に準拠　　する。
【距離の測定】
１．ゴールした選手のフライト距離は、テイクオフから各指定パイロン間、そしてゴール　　までの距離を加算した距離である。
２．ゴールできなかった選手の距離は、最終通過パイロンまでの距離合計とする。ただし、指定された紀ノ川河川敷に着陸した場合に限りベストポジションが認められる。
【得点計算】
１．得点計算は、ＪＨＦ　ＨＧルールブック競技規則に定めたＧＡＰシステムによる計算　方法に準ずる。

《安全規定》
【安全規定】
１．全てのフライトは、選手個人の責任において行わなければならない。
２．選手は、心身ともに競技参加に支障の無いよう、健全でなければならない。
３．フライトは、使用機体の運用限界以下で行わなければならない。
４．電線、建築物、人混みの上空では５０ｍ以上の高度を持って飛行すること。
５．高圧線付近を飛行する場合、高圧線から１００ｍ以内だと磁場の引きつけを起こす場　　合があるので、１００ｍ以上の安全間隔を持って飛行すること。
６．エリア内の飛行禁止空域をフライト前に熟知し、フライトを行ってはならない。
【装備について】
１．競技に参加する選手は、適切なる防護ヘルメット、ロック付きのカラビナ、１２０日　　以内にリパックされた緊急用パラシュート、サブスイングラインを必ず装備すること。
２．バラストは装備できるが、投下できるバラストを使用する場合、飛行中の投下は禁止　　す

る。
３．無線の使用は、電波法に基づいて行うこと。また、オフィシャル周波数での私用通信　は禁止する。
【飛行中ルール】
１．同一サーマルでは、上の機体は下でセンターリングしている機体の旋回方向に合わせ　ること。
２．先にセンターリングしている機体がいるサーマルへ入る場合、必ずその旋回方向を合　わせること。
３．同高度でセンターリングしている機体は、旋回の中心を合わせるようにすること。
４．その他優先権等は、航空法に準ずる。
５．テイクオフ前の旋回方向については、当日選手ミーティングで決定する。
６．着陸で同時侵入になった場合、高度のある機体が高度の低い機体の後方を飛行すること。
【競技の中止】
１．一旦競技が開始されても、気象条件の急変等によりその競技をキャンセルする場合が　ある。
２．キャンセルの場合フライト中の選手には無線連絡及び、テイクオフとランディングで　発煙筒により知らせる。
３．キャンセルの合図が有れば、フライト中の選手は速やかに安全にランディングするこ　と。
【大会本部】
１．ランディング場横に置く。
２．大会期間中緊急連絡は、スカイレジャー航空無線を貸し出しするので選手は常に受信している事。
【公式掲示板】
１．公式掲示板を下記の場所に設置し、タスク、成績等発表するので、選手は常に公式掲　示板を確認すること。
２．確認せずに受けた不利益については、主催者並びに役員はその責任を負わない。
設置箇所　大会本部前
テイクオフセットアップゾーン
【選手の運搬及び回収】
１．テイクオフまでの登頂は、各自で行うものとする。但し、登頂方法が無いものは、決　められた場所、時間に出発する主催者が用意した車両にて行う。
２．アウトランディングした選手の回収及び、選手の移動は各自で行うこと。但し、実行　委員長が必要と認めた場合、回収用車両を運行する。
【航空法の遵守】
１．この規定に定めない飛行場のルールは、航空法を遵守すること。
【運営】
1.大会主催者は必ず選手の代表を含むタスクコミッティーとセフティーコミッティーを設け、アドバイスを受けること。